

事務事業マネジメントシート
(兼) 予算編成資料・実施計画資料

事務事業名	母子健康相談事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	5212			
	<input type="checkbox"/> 実施計画事業		所属課室	健康増進課		課長名	櫻田正文			
			所属担当	健康相談担当		担当者名	今村晶子			
基本政策	基本計画体系	IV 快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政策	18	健康づくりの推進	01	一般	04	01	03	020	08	
施策	31	保健・医療の推進	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国の制度による義務的事業 <input type="checkbox"/> 施設等維持管理事業 <input type="checkbox"/> 県の制度による義務的事業 <input type="checkbox"/> 補助金交付事業 <input type="checkbox"/> 市の制度による義務的事業 <input type="checkbox"/> その他の事業 <input type="checkbox"/> 義務化されている協議会等の負担金						
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 15 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		法令根拠	母子保健法						
事務事業の概要	事業の内容: 期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (24年度 決算見込)						
	1. 妊婦、乳幼児の健康の保持増進の為、また保護者の育児不安等の軽減を図るため、個別に相談を受け助言、支援をする。			項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)			
	2. 定例相談日を設けている。(妊婦、乳幼児 毎週水曜日 午前9時~11時) 3. 電話等での相談は随時相談対応している。 4. 発達にアンバランスがある児や育児不安がある保護者を対象に心理相談を設けている。(幼児健診時:月4回、定例心理相談:月1回)			賃金	549					
			報償	270						
						計	819			

1 現状把握(DO)

① 活動		⇒	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない	
24年度活動実績	各種健康相談の開催		名称	単位
25年度活動予定	各種健康相談の開催		ア:妊婦健康相談開催数	数
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等			イ:乳幼児健康相談開催数	数
妊婦、乳幼児および保護者			ウ:心理相談開催数	数
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)			⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	
乳幼児の発育、発達が順調になるよう適切な支援ができ、保護者の不安が軽減される。			名称	単位
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)			ア:妊婦相談数	数
適切な支援を活用し、安心して育児ができる。			イ:乳幼児健康相談者数	数
			ウ:心理相談利用者数	数
			⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない	
			名称	単位
			ア:発達支援事業についた児の数	数
			イ:	
			⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない	
			名称	単位
			ア:身近に相談できる専門家のいる母親の割合	%
			イ:安心して子育てができる環境についての満足度	%

② 事業費・指標の推移		単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	300	819	727	727	727	727
	事業費計(A)	千円	300	819	727	727	727	727	
	人件費	正規職員従事人数	人	6	6	6	6	6	6
		延べ業務時間	時間	436	436	388	388	388	388
		人件費計(B)	千円	1,727	1,727	1,537	1,537	1,537	1,537
		(A)+(B)	千円	2,027	2,546	2,264	2,264	2,264	2,264
活動指標		ア:数	52.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0
	イ:数	52.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0	
	ウ:数	92.0	88.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	
対象指標	ア:数	428.0	441.0	450.0	450.0	450.0	450.0	450.0	
	イ:数	547.0	335.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	
	ウ:数	269.0	249.0	270.0	270.0	270.0	270.0	270.0	
成果指標	ア:数	53.0	36.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	
	イ:数								
上位成果指標	ア:%	50.3							
	イ:%								

③この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	平成15年度合併時に現在の形で実施。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか?また、今後の予測は?	各種相談の利用者が増加。乳幼児健康相談は、H22は横ばいであったが相談時間が長引く傾向あり。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	乳幼児健康相談は混雑緩和のため、受付方法や流れを変更した。継続利用者からの苦情もなく実施されている。

④ 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	<input checked="" type="checkbox"/> 取り組みしている ⇒【内容↓】 <input type="checkbox"/> 取り組みしていない ⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	乳幼児健康相談は利用者の増加に伴い、業務量が増えていた。利用者アンケートを実施し、希望を反映させつつ、受付方法等々を改善してきた。また、乳幼児の計測者を専任にし、円滑に流れるように体制整備した。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	乳幼児健康相談にて発育確認を目的として来所する方が多いため、市内2箇所の児童館に体重計を設置し気軽に発育確認できる場を乳幼児健康相談以外に整備した。

事務事業名	母子健康相談事業	所属部	保健福祉部	所属課	健康増進課
-------	----------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由↓】 妊娠、育児についての不安や疑問を相談できる場が身近にある事で、不安を軽減しながら育児にあたる事ができる。また、発育、発達に課題のある子については早期に医療機関やサービスに結びつけることで、保健・医療への推進につながる。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由↓】 妊婦相談は母子健康手帳交付時に行うため行政で実施が適当。その他相談については、専門家に気軽に相談できる場が民間には少ない。育児不安の軽減、障害等が疑われる子の早期支援のために行政が実施する必要がある。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 <input type="checkbox"/> 民間・NPO <input type="checkbox"/> 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由↓】 妊婦相談は妊婦対象。乳幼児健康相談は保護者の希望で来所。心理相談は保健師、心理士が必要と判断した対象。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	<input type="checkbox"/> かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由↓】 乳幼児健康相談は22年度は受付等の運営方法改善。発育計測のみ希望など専門職の相談を要しない場合は市内施設で計測等保護者が子の発育確認できる場づくりとして、市内2箇所の児童館に体重計を設置。利用状況を鑑み今後も検討の余地
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることができるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) <input type="checkbox"/> 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 心理相談事業と心理士が個別相談対応する事は類似点だが、相談内容や単発利用か継続相談かで住み分けている。 <input type="checkbox"/> 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 気軽に専門家に相談できる場がなくなると、不安を抱えて育児をする方が増える。不適切な対応をする場合も考えられる。 <input type="checkbox"/> 休止・廃止ができる <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 民間では、身近に専門家に相談できる場所がない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 心理相談は平成22年度に報償費の単価はそのまま相談枠を増やした。(半日3件を4件へ)。平成23年度は湯茶代カット。現状以外、削減余地なし。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 平成21年度に乳幼児健康相談はアンケート実施し、スタッフの稼働について改善を行った。乳幼児健康相談では、H24年度より発育測定を臨時職員対応とし、空き時間は保健師、栄養士ともに事務室で執務を行うことができています。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由↓】 妊婦、乳幼児健康相談は広報で周知し、対象者の希望で来所する。心理相談は利用枠が少ないので、対象者は、健診等で心理士、保健師が必要と思われる方に紹介している。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	各事業の目的、対象を再確認する機会となった。乳幼児健康相談はスタッフの稼働について、利用者のアンケートを基に改善をおこなった。心理相談は利用者の増加に対応するため、相談枠を増加した。今年度は事業を実施しながら成果について確認、評価していく。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
<input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) <input checked="" type="checkbox"/> 事業統合・連携(有効性⑤の結果) <input type="checkbox"/> 公平性改善(公平性⑨の結果) <input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> 成果向上(有効性④の結果) <input type="checkbox"/> 現状維持(全評価項目で適切) <input type="checkbox"/> 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	維持	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	維持	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
(2) 改革改善案について	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① 乳幼児健康相談は、来所目的を的確に把握し、短時間で効率の良い相談を行うため、問診票を作成し使用している。 ② 心理相談は増加する相談に対応するため、定例相談を4枠で継続していく。 ③	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>⑧</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>⑥</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	⑧	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑧																					
コスト削減優先度評価結果	⑥																					
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																						
① 利用している問診票のまどめを行い、相談者の来所目的を把握する。計測希望なのか相談希望が多いのかによって、より身近で計測ができるような方法を検討していく。 ② ③																						